

【資料紹介】

「登科録」

近松 鴻 二*

本稿は、東京都江戸東京博物館が収蔵する江戸幕府の学問吟味に関する記録「登科録」（資料番号九六二〇一四一六）を紹介するものである。

江戸幕府の学問吟味は、寛政の改革を推進した松平定信の発案で制度化された。当初は学問（とくに朱子学）振興が目的で、合格者には褒賞の銀品が授与されるだけであったが、次第に幕吏の登用や昇進の要件にもなったといわれる。第一回は寛政四年（一八九二）九月に行われ、以後三年に一回行うことが規定され、試験官として林大学頭と学問所の儒官、監督官に目付二名が任命された。このあと学問吟味は、慶応三年（一八六七）まで十八回行われた。

なお、第一回の学問吟味は、試験官と監督官との評価の相違から合格者が出なかった。

標題の「登科」は、中国で行われていた官吏登用試験「科挙」の合格者の意である。本書は、縦二六・五×横一七・七センチメートルの縦帳、全八八丁で墨付は八五丁である。

本文の冒頭には「星野」と「島田氏雙桂園」の藏書印がある。「星野」は最終丁にある「昌平饗吏員 星野壽平」と考えられる。肩書から壽平は、この記録の作成者の可能性がある。「雙桂園」は、明

治時代の漢学者島田篁村（天保九年（一八二八）～明治三十一年（一八九八））の私塾名である。島田篁村は「源六郎」の通称で、慶応元年（一八六五）の合格者に記載されている。

本書は、寛政六年（一八九四）の第二回から慶応元年（一八六五）の第十八回までの学問吟味合格者名簿である。学問吟味合格には、甲・乙・丙の三部門があるが、丙の部の合格者名の記載は、嘉永六年（一八五三）の第十四回からで、それ以前は、合格者数のみ記されている。一六二頁の表1は、本書の記載から各年次の部門別合格者数を示したものである。表中の御目見以上・以下の格式は、文字で示されたものもあるが、御目見以下の該当者名の記載が、御目見以上より一段低くなっていることから判断したものである。

本書によると甲の部の合格者が六十六人、乙の部が四百十九人、丙の部が四百六十五人、合計九百五十人となっている。この数字は延べ数で、なかには複数回合格した者がいる。合格者全員の名前が記載されている嘉永六年以降の複数回合格者として、一六一頁の表2に三回合格者三人、表3に二回合格者六十四人を五十音順に示した。

* 江戸東京博物館都市歴史研究室専門調査員

また、一六〇頁の表4には、本書の作成者あるいは旧蔵者が、該人物の緯（いみな〓本名）または号などを記した貼紙や挟み紙をした、所謂著名人を示した。

幕府の学問吟味に関する館蔵史料として「甲寅廷試稿」（資料番号八七二〇一五一一）がある。標題の「甲寅」は、第二回の学問吟味が実施された寛政六年（一七九四）の干支、「廷試」は、科擧に及第した者に天子が自身で行う試験の意である。この史料は「登科録」に寛政六年の甲之部合格者として記されている大田直次郎が書き残した学問吟味の経過と課題および解答を、寧靜居某が嘉永六年（一八五二）に写したものである。大田直次郎は緯（いみな〓本名）を覃、南畝・蜀山人など数多くの号を用いて、戯作・狂歌を能くした文化人で、学問吟味合格後は良き幕吏の道を励んだという。

この「甲寅廷試稿」には、「游戲廬」と「殘花書屋」の蔵書印がある。游戲廬の詳細は未詳であるが、殘花は旧幕臣で、明治大正時代には宗敎家・文学者として活躍した戸川安宅の号である。また、殘花は蔵書家としても知られている。

「甲寅廷試稿」には、學問吟味の予備試験にあたる初場から、本試業・褒賞に至る経過が記されているほか、出題された四書五経や史記の一節、解答として文章の大意を示す「章意」、語句を説明する「字訓」、出題された文章を詳しく解説する「解義」、他の典籍からの引用を交えて考察する「餘論」、白文を漢文に戻す「復文」が記されている。

大田南畝の「甲寅廷試稿」は「科場窓稿」として広く流布し、多

くの写本が現存し、吉川弘文館『新百家説林 二蜀山人全集』、岩波書店『大田南畝全集』第十七巻に活字化されている。また、岩波書店『国書総目録』によると、大田蜀山人の学問吟味に関する記録として「学問御試業辨書並文章」が収載されている。

このほか学問吟味の「対策本」として、南畝と同時に合格した遠山景晉（町奉行景元の実父で長崎奉行などを歴任）の「對策則」が知られている。

[表1] 学問吟味年次別合格者数

「登科録」による

合格年月	甲の部			乙の部			丙の部			合計		総計
	御目見 以上	御目見 以下	小計	御目見 以上	御目見 以下	小計	御目見 以上	御目見 以下	小計	御目見 以上	御目見 以下	
寛政6年(1794) —	4	1	5	5	9	14	—	—	28	—	—	47
寛政9年(1797) —	2	0	2	17	4	21	—	—	12	—	—	35
寛政12年(1800) —	2	0	2	18	7	25	—	—	21	—	—	48
享和3年(1803) 閏正月	5	2	7	13	9	22	—	—	26	—	—	55
文化3年(1806) 正月	3	3	6	14	11	25	—	—	33	—	—	64
文政元年(1818) 正月	2	1	3	8	3	11	—	—	28	—	—	42
文政6年(1823) 正月	3	2	5	9	5	14	—	—	18	—	—	37
文政11年(1828) 正月	4	0	4	10	1	11	—	—	20	—	—	35
天保4年(1833) 正月	1	1	2	4	2	6	—	—	10	—	—	18
天保9年(1838) 正月	2	2	4	7	2	9	—	—	17	—	—	30
天保14年(1843) 2月	3	2	5	13	12	25	—	—	29	—	—	59
嘉永元年(1848) 正月	2	2	4	15	7	22	—	—	30	—	—	56
嘉永6年(1853) 正月	1	2	3	24	11	35	21	16	37	46	29	75
安政3年(1856) 8月	1	3	4	33	18	51	34	20	54	68	41	109
安政6年(1859) 正月	2	2	4	29	16	45	28	12	40	59	30	89
文久2年(1862) 正月	1	2	3	32	17	49	24	18	42	57	37	94
慶応元年(1865) 正月	2	1	3	18	16	34	12	8	20	31	26	57
合計	40	26	66	269	150	419	—	—	465	—	—	950

*「登科録」には、嘉永元年までの「丙の部」合格者名の記載がなく、合格した人数のみ記されている。

「登科録」

〔表2〕学問吟味3回合格者

「登科録」による

番号	合格者名	一回目合格			二回目合格			三回目合格		
		年次	部門	格式	年次	部門	格式	年次	部門	格式
1	金田 六三郎	安政3	丙	以下	安政6	丙	以下	文久2	丙	以下
2	坂本 銚之助	安政3	丙	以上	安政6	丙	以上	文久2	丙	以上
3	塚原 麟平	嘉永6	丙	以下	安政3	丙	以下	安政6	乙	以下

〔表3〕学問吟味2回合格者

「登科録」による

番号	合格者名	一回目合格			二回目合格			番号	合格者名	一回目合格			二回目合格		
		年次	部門	格式	年次	部門	格式			年次	部門	格式	年次	部門	格式
1	浅 香 太 郎	安政3	丙	以下	安政6	甲	以下	33	白石 金太郎	文久2	丙	以下	慶応元	乙	以下
2	天野 内藏助	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	34	菅沼 鍾三郎	嘉永6	丙	以上	安政3	乙	以上
3	飯嶋 半十郎	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	35	鈴木 鉄三郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上
4	猪狩 徳一郎	嘉永6	丙	以上	安政3	丙	以上	36	須田 彦三郎	文久2	丙	以下	慶応元	乙	以下
5	池野 富五郎	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	37	關 根 領 作	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以下
6	生駒 藤之允	文久2	丙	以下	慶応元	乙	以下	38	瀧川 清三郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上
7	石川 勝之助	安政6	丙	以下	文久2	丙	以上	39	竹島 房之助	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上
8	石倉 鐘太郎	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	40	多田 銃三郎	安政3	丙	以上	安政6	丙	以上
9	石丸 歙之丞	嘉永6	丙	以上	安政3	乙	以上	41	田沼 倫之助	嘉永6	丙	以下	安政3	丙	以下
10	猪倉 辰三郎	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以下	42	田上作左衛門	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以下
11	上田 鈴次郎	嘉永6	丙	以上	安政6	乙	以上	43	長 六三郎	安政3	丙	以上	安政6	甲	以上
12	大 井 謙 吉	文久2	丙	以下	慶応元	乙	以上	44	津田 貞七郎	嘉永6	丙	以上	安政3	乙	以上
13	岡田 斧五郎	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	45	寺田 健三郎	文久2	丙	以下	慶応元	乙	以下
14	貝塚 幸太郎	安政6	丙	以下	文久2	乙	以下	46	藤堂平右衛門	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上
15	片山 直太郎	安政6	丙	以下	文久2	乙	以下	47	内藤 孝太郎	文久2	丙	以上	慶応元	乙	以上
16	加 藤 謙 次	安政6	丙	以下	文久2	乙	以下	48	仲田 太一郎	安政3	丙	以下	安政6	乙	以下
17	川上 猪太郎	安政3	丙	以上	安政6	丙	以上	49	楢原 文次郎	安政3	丙	以上	安政6	甲	以上
18	木城 安太郎	嘉永6	丙	以上	安政3	丙	以上	50	南條 源太郎	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以下
19	木曾 直四郎	文久2	丙	以上	慶応元	乙	以上	51	西尾 升 助	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以下
20	久保 満太郎	嘉永6	丙	以上	安政3	乙	以上	52	野本 八三郎	嘉永6	丙	以上	安政3	丙	以下
21	窪田 昭次郎	安政6	丙	以下	文久2	丙	以下	53	平岩 又三郎	嘉永6	丙	以上	安政3	乙	以上
22	桑原 廣三郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上	54	福王 源十郎	嘉永6	丙	以上	安政3	丙	以上
23	五島 馬之助	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	55	星野 格太郎	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以下
24	近藤 彦四郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上	56	松尾 榮太郎	安政3	丙	以下	安政6	甲	以下
25	齋藤 成之丞	文久2	丙	以下	慶応元	乙	以下	57	松本 綱三郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上
26	酒井 七十郎	文久2	丙	以上	慶応元	丙	以上	58	三島 芳五郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上
27	酒井 和三郎	嘉永6	丙	以上	安政3	乙	以上	59	三輪 金三郎	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上
28	坂田 力三郎	安政3	丙	以下	安政6	乙	以下	60	山 岡 百 助	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上
29	佐々木 循輔	安政3	丙	以上	安政6	乙	以上	61	山本 原八郎	嘉永6	丙	以上	安政3	丙	以上
30	佐 藤 兵 庫	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	62	吉田 鑑之助	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上
31	宍戸 鎰太郎	安政3	丙	以下	安政6	乙	以下	63	若 泉 次 郎	安政3	丙	以下	安政6	乙	以下
32	庄田 彦太郎	安政6	丙	以上	文久2	乙	以上	64	渡邊 安太郎	嘉永6	丙	以下	安政3	乙	以上

* 排列は50音順。

* 格式の「以上」は御目見以上、「以下」は御目見以下を示す。

[表 4] 貼紙・挟み紙のある合格者

記載文字	合格者名	合格年次	諱	官名・号等	活躍分野	備 考
(貼紙) 遠山景晉	遠山 金四郎	寛政 6 年 甲	景晉	左衛門尉	幕 吏	幕府の最終職は勘定奉行 町奉行 景元の実父
(貼紙) 蜀山人	大田 直次郎	寛政 6 年 甲	覃	南畝・蜀山人	狂歌・戯作	合格後は幕務に励む
(挟み紙) 荻野八百吉 (梅塙)	荻野八百吉	享和 3 年 甲	長	梅塙・蛇山病人	幕吏・仏教	天守番などを歴任
(貼紙) 向山黄村	向山 源太夫	天保 9 年 甲	築	隼人正・黄村	幕吏・漢詩人	幕府の最終職は若年寄
(貼紙) 玄蕃頭	永井 岩之丞	嘉永元年 甲	尚志	玄蕃頭・主水正介堂	幕吏・行政官	(挟み紙)「永井尚志 介堂 玄蕃 文化 4 年 1891 明治 24 年 3.1 76 才」 幕府の最終職は若年寄 元老院権大書記官
(貼紙) 敬 字	中村 釗太郎	嘉永 6 年 乙	正直	敬 字	教育家・道德家	儒官、東京大学教授
(貼紙) 朝比奈	朝比奈 鑑三郎	文久 2 年 乙	……	……	……	
(貼紙) 篁 村	嶋田 源六郎	慶応元年 甲	重禮	敬甫・篁村	漢 学	昌平塾助教、文科大学教授



「登科録」冒頭部分（次頁参照）

凡例

- 一 翻刻にあたり、可能な限り原本の様式を残したが、編集の都合により、原本の体裁を損なわない程度に、次のようにした。
- 1 読みやすくするため文中に適宜読点（、）中黒「」を付した。
- 2 漢字は、正字体で記されているものは、原則としてそのままとし、異体字は原則として正字体・常用体に改めた。
- 3 誤字・脱字はそのまま表記して、右傍に（ママ）を付した。
- 4 変体仮名は、原則として現行の表記に改めた。但し、助詞の「は」、「へ」、「て」、「に」を表す「者」、「江」、「而」、「二」はそのまま表記した。
- 5 朱書は該当部分を「」で括り、右傍に（朱）と記した。
- 6 判読困難の文字は、□□（字数分）で示した。
- 7 原本の訂正箇所は、該文字の左傍に「々」を付し、右傍に訂正した文字を付した。
- 8 踊り字は、漢字は「々」、平仮名は「、」、片仮名は「、」、大返しは開いて文字に改めた。
- 9 原本の字数が多く、一行に収まらない場合は適宜改行した。
- 一 肩書・名前が一段下に記載されている合格者は、御目見以下の格式の者を示す。
- 一 「」内は校訂者の註記である。
- 一 解説・筆耕・校訂・校正は近松鴻二、編集は行吉正一があつた。

寛政6年

(朱) [本文]
 星野 登科録
 藏書

[表紙]
 登科録
 肝煎

(朱)
 島田氏 雙桂園 藏書記

寛政六年甲寅

合格之者 四拾七人
 甲 五人
 乙 拾四人
 丙 貳拾八人

甲之部 五人
 御目見以上 四人
 御目見以下 壹人

御小性組

佐野右兵衛尉組

[貼紙]
 「遠山景晉」

遠山金四郎

小普請組

酒井紀伊守支配

奈佐久左衛門

小普請方

熊太郎惣領

山上藤一郎

長崎奉行

式部少輔伯父

平賀新五郎

神尾市左衛門組御徒

(マ)
 太田直次郎

(御目見以下)
 [貼紙]
 「蜀山人」

〔登科録〕

乙之部 拾四人

御目見以上 五人
御目見以下 九人

寄合

松平内藏助

御小性組

坪内美濃守組

人見又兵衛

御代官

瀧川小右衛門

御小性組

大久保豊前守組与頭

弥十郎惣領

高林弥藏

同

山田肥後守組

次郎太夫惣領

宮崎平四郎

〔御目見以下〕

神尾市左衛門組御徒

井上作左衛門

同

鈴木文五郎

同

中神順次

吉松次左衛門組御徒

上條八太郎

瀬名傳右衛門組御徒

新樂郷右衛門

富士見御宝藏番

入戸野十五郎組

忠兵衛養子

内藤弘藏

進物取次番之頭

市太郎惣領

飯田直次郎

御中間

幸右衛門悴

大斧幸之丞

御数寄屋坊主

文宅

寛政九年丁巳

合格之者 三拾五人

甲 貳人
乙 貳拾壹人
丙 拾貳人

寛政9年

甲之部 式人 御目見以上

寄合

能勢筑前守

小十人

三宅助之允組

鈴木才兵衛

乙之部 式拾壹人

御目見以上 拾七人
御目見以下 四人

御書院番

長谷川丹後守組

江口長七郎

西丸新御番

松平侶之允組

勝 安兵衛

新御番

酒井近江守組

山本忠兵衛

大御番

新庄駿河守組

朝比奈傳吉

表御右筆

中山長之丞

御徒頭

善次郎養子

坂部弥太郎

御船手

權左衛門養子

筒井善三郎

奥御右筆組頭

金十郎惣領

萩原己三郎

御廣敷番之頭

新右衛門惣領

清水庄九郎

御書院番

長谷川丹後守組

市之丞養子

間宮恒五郎

西丸御書院番

妻木佐渡守組

十四郎惣領

出井助太郎

御書物奉行

藤之助惣領

増嶋金之丞

「登科録」

小普請方

新九郎養子

田丸 新左衛門

小普請組

石河壺岐守支配

文次郎惣領

飯嶋 平次郎

同

秋元隼人支配

勘右衛門養子

大沢 定之丞

大御番

松平下野守組

作十郎弟

宮重 八十之助

西丸御書院番

妻木佐渡守組

出井十四郎実方甥

青木 郷助

細井豊前守組御徒

望月 文之助

稲葉主税組御徒

中神 悌一郎

〔御目見以下〕

清水勤番支配

柘植長門守支配

小普請世話役

吉見 儀助

小普請組

阿部大学組

志賀 鍋太郎

寛政十二年庚申

合格之者 四拾八人

甲 貳人

乙 廿五人

丙 廿壹人

甲之部 貳人 御目見以上

千人頭

志村 又左衛門

新御番

朝比奈河内守組

喜平次惣領

松平 喜太郎

乙之部 貳拾五人

御目見以上

御目見以下

拾八人
七人

寄合

小笠原越中守

同

根来喜内

西丸御書院番

永見伊豫守組

間宮平蔵

同

同

井戸信八郎

小十人

小出右京亮組

鈴木勝次郎

小普請組

渡辺平十郎支配

間宮剛次郎

同

山口勘兵衛支配

深尾權左衛門

同

仙石弥兵衛支配

林宇兵衛

同

室賀老岐守支配

野村兵藏

同

森川織部支配

前田幸三郎

同

小笠原若狭守支配

圖司丈助

御留守居番

長八郎惣領

齋藤主膳

西丸御目付

式部養子

鵜殿鉄三郎

御徒頭

帯刀惣領

土屋金三郎

御納戸

善之丞惣領

澤為次郎

西丸御小性組

柘植長門守組

次郎左衛門養子

〔登科録〕

〔御目見以下〕

夏目長右衛門
 小普請組
 仙石弥兵衛支配
 五太夫惣領
 林 虎三郎
 大御番
 高木主水正組
 四郎三郎叔父
 永田龜之助
 西丸御書院番頭
 巨勢日向守与力
 饗庭仙太郎
 石河惣右衛門御徒
 松本直右衛門
 小普請組
 戸田中務組
 源之助悴
 右衛門督殿右筆
 小嶋源藏
 清水勤番世話役手傳
 柳權十郎
 伊藤河内守支配
 小普請

享和三年癸亥閏正月

貞章院殿用達手傳
 勇右衛門悴
 石坂勇八郎
 伊藤河内守支配小普請
 関半之丞弟
 鈴木三郎次郎
 兒玉嘉内
 甲 七人
 乙 廿二人
 丙 廿六人
 合格之者 五拾五人
 御目見以上 五人
 御目見以下 二人
 甲之部 七人
 御小性組
 津田山城守組
 筒井右馬助
 同
 本多大隅守組
 大草大次郎
 西丸御目付
 六左衛門養子

享和3年

長田 求馬

飛驒郡代

大助惣領

小出 伊之助

御目見持格

西丸表火之番

勇四郎惣領

依田 惠三郎

〔御目見以下〕

松平縫殿助組西丸御徒

〔狭み懸〕
〔荻野八百吉(梅搦)〕

荻野 八百吉

明屋敷番伊賀者

横田 順藏

乙之部 廿二人

御目見以上 十三人
御目見以下 九人

寄合

小笠原 中務

西丸御小性組

戸田出羽守組

大久保初五郎

同

同

柴村 太郎兵衛

御書院番

佐野肥前守組

東條 栄次郎

小十人

江馬平左衛門組

余語源 三郎

小普請組

溝口相模守支配

井戸 十三郎

御小納戸

弥十郎惣領

野々山 清藏

御小性組

高井但馬守組

大膳養子

石川 五郎助

同

同

惣左衛門惣領

松崎 幸十郎

新御番

久永主税組

八郎右衛門養子

〔登科録〕

〔御目見以下〕

金田政五郎
 小十人
 野間金三郎組
 文左衛門惣領
 葉山金次郎
 御番医師
 田沢隆玄弟
 八柳駒平
 小普請組
 本多兵庫支配
 弥五右衛門実甥
 伊丹左兵衛
 御臺様御廣敷添番
 奥山龜三郎
 火消役
 一柳猷吉組与力
 福原敬藏
 小笠原鎔次郎組御徒
 猪瀬良平
 藤堂近江守組西丸御徒
 金子半五郎
 御作事下奉行
 郡次郎悴

文化三年丙寅正月

星野力太郎
 同
 八兵衛悴
 鈴木栄藏
 御留守居番
 安藤長左衛門組与力
 平太夫悴
 早川桑藏
 明屋敷番伊賀者
 早川八郎
 同
 勝田弥十郎
 合格之者 六拾四人
 甲 六人
 乙 廿五人
 丙 三十三人
 甲之部 六人
 御目見以上 三人
 御目見以下 三人
 御小性組番頭
 出羽守惣領
 戸田十五郎

文化3年

小普請組

逸見左近支配世話取扱

人見 弥右衛門

大御番

竹中遠江守組

八十八養子

太田友三郎

〔御目見以下〕

大御番

巨勢日向守与力

彦右衛門養子

植木八三郎

清水奥向勤番

織之丞弟

日根野文三郎

西丸御裏御門番之頭

小川七郎左衛門組同心

浦野懷之助

乙之部

廿五人

御目見以上 十四人
御目見以下 十一人

寄合

筑紫主水

御小性組

室賀老岐守組

鈴木直之丞

西丸御書院番

山口和泉守組

三賀清五郎

同

高木伊勢守組

羽太弥太郎

大御番

丹羽式部少輔組

江原馬之助

同

松平丹後守組

川勝頼母

御勘定

田中安之丞

小普請組

彦坂九兵衛支配

大河内彦四郎

西丸御書院番

高木伊勢守組

監物養子

安藤左京

「登科録」

同

同

鉄次郎養子

山岡宇之助

西丸新御番

小笠原安房守組

忠兵衛養子

山本權十郎

御代官

大藏養子

大原富之丞

箱館奉行支配調役

栄次郎惣領

大嶋九郎太郎

小普請組

佐藤修理支配世話取扱

新之助惣領

澁江久太郎

〔御目見以下〕

紅葉山火之番

市左衛門悴

同見習
柴田斧七郎

大御番頭

丹羽式部少輔与力

片山重次郎

御先手

三淵伯耆守組与力

眞里谷政五郎

同

荒尾但馬守組与力

中里三次

小普請組

逸見左近組

福井久七郎

御先手

依田平左衛門組与力

勝藏悴

小林鉄之助

御普請役

木村行藏

御賄六尺

清助

御勘定吟味方下役

幸吉悴

神谷幸藏

御普請役

文政元年戊寅正月

合格之者 四拾貳人
甲 三人
乙 拾一人
丙 廿八人

甲之部 三人
御目見以上 貳人
御目見以下 壹人

伴七郎悴

同見習

藤太夫悴

蓮 見 乾 造

御持弓頭

堀三左衛門組同心

太郎左衛門悴

石 井 良 平

忠太夫悴

白 石 由 郎

乙之部 拾壹人

御目見以上 八人
御目見以下 三人

小普請組

堀田伊勢守支配

新 家 栄 之 助

御勘定吟味役

桓兵衛惣領

勝 權 一 郎

御天守番之頭

文左衛門惣領

大御番

大久保出雲守組与頭

清兵衛惣領

山 本 鎌 之 丞

御小性組

池田甲斐守組

權左衛門惣領

筒 井 萬 太 郎

御書院番

牧野伊豫守組

御納戸

忠七郎弟

長 坂 八 重 八

御普請役

〔御目見以下〕

文化3年・文政元年

〔登科録〕

平四郎惣領

宮崎 太一郎

西丸御賄頭

与兵衛惣領

榎原 政之助

新御番

秋月大学組

平左衛門養子

富岡 又次郎

拂方御金奉行

八兵衛次男

鈴木 八三郎

大御番頭

五嶋伊賀守与力

高橋 雄助

阿倍四郎五郎組西丸御徒

岡田 直五郎

吹上役人目付

牧右衛門悴

同書役

田澤 重助

文政六年癸未正月

合格之者 三拾七人

甲 五人

乙 十四人

丙 十八人

甲之部 五人

御目見以上 三人

御目見以下 貳人

西丸御書院番

池田甲斐守組

小十郎惣領

井戸 鉄太郎

大御番

酒井但馬守組

傳四郎惣領

淺香 吉十郎

西丸小十人

千村彈正少弼組

隼之助弟

山本 活五郎

御目付支配無役

小林 武太夫

小普請組

神尾豊後守組

〔御目見以下〕

〔御目見以下〕

文政6年

藤十郎悴

清水吉之助

乙之部 拾四人
御目見以上 九人
御目見以下 五人

小普請組

服部伊賀守支配

愛知升七郎

西丸御裏御門番之頭

貞右衛門養子

木城扇之助

西丸御納戸頭

吉五郎惣領

野田龜太郎

西丸御書院番

佐藤美濃守組

善十郎惣領

平岩七之丞

同

同

善右衛門惣領

松崎滿太郎

大御番

酒井飛驒守組

四郎兵衛惣領

杉原斧吉

小十人

大久保弥右衛門組

半之助惣領

杉浦平三郎

大御番

戸田美濃守組与頭

太郎左衛門次男

飯室清次郎

西丸御書院番

池田甲斐守組

彦四郎弟

大河内鍋之助

小普請組

神尾豊後守組

小嶋修三

同

服部伊賀守組

柴田順藏

同

[御目見以下]

「登科録」

文政十一年戊子正月

合格之者 三拾五人
甲 四人
乙 拾一人
丙 貳拾人
甲之部 四人 御目見以上

駒木根大内記組

保田小三郎

御材木藏同心

甚左衛門粹

柘植顯之助

柿沼善次郎組御小人

甚五郎弟

鳥羽彦四郎

西丸御書院番

大久保豊後守組

中條鐵太郎

大御番

小笠原備後守組

小野整三郎

小普請組

長井五右衛門支配

榎原賢次

同

太田内藏頭支配

林大学頭方書物御用出役

弥太郎弟

小貫義之助

乙之部 拾壹人

御目見以上 拾人
御目見以下 壹人

寄合

松平内記

御書院番

米津内藏頭組

筒井平右衛門

小普請組

土屋讚岐守支配

太田宋次郎

大御番

池田甲斐守組与頭

平左衛門惣領

杉原平吉

御書院番

松平内匠頭組

源左衛門惣領

文政11年・天保4年

〔御目見以下〕

太田新七郎

同

同

主膳惣領

戸田卓太郎

大御番

内藤豊後守組

留三郎養子

久保勝次郎

同

松平對馬守組

兵五郎惣領

大岡勇次郎

同

同

甚兵衛惣領

堀田栄之助

同

酒井飛驒守組

傳之助惣領

横山良助

小笠原孫七郎組徒頭

各務直太郎

天保四年癸巳正月

合格之者 拾八人

甲 貳人
乙 六人
丙 拾人

甲之部 貳人

御目見以上 壹人
御目見以下 壹人

小普請組

淺野隼人支配

四郎兵衛惣領

大御番

松平長門守組

傳右衛門惣領

杉原金三郎

〔御目見以下〕御先手

井上左太夫組仮御抱入与力

木村金平

乙之部 六人
御目見以上 四人
御目見以下 貳人

西丸御書院番

大久保主膳正組

荒井十兵衛

「登科録」

同

横田筑後守組

八百橘惣領

小花和銈次郎

新御番

齋藤若狭守組

善兵衛惣領

北村 弥門

御書院番

戸田阿波守組

兵庫助弟

松平 謹次郎

服部一郎右衛門組御徒

金子 勘次郎

御勘定吟味方改役並

藤之助悴

小林 栄太郎

天保九年戊戌正月

合格之者 三拾人

甲 四人
乙 九人
丙 拾七人

甲之部 四人

御目見以上 式人
御目見以下 式人

小普請組

長井五右衛門支配

〔^{〔貼紙〕}向山黄村〕

向山 源太夫

西丸御納戸

又兵衛惣領

神谷 平七郎

〔御目見以下〕

小普請組

長井五右衛門組

森田 岡太郎

町奉行

大草安房守組同心

惣太夫弟

金田 鎌太郎

乙之部 九人

御目見以上 七人
御目見以下 式人

御小性組

久貝因幡守組

大草 大次郎

西丸御小性組

天保9年・14年

〔御目見以下〕

本多日向守組

水野 甲子二郎

小普請組

後藤佐渡守支配

早川 庄次郎

右大将様御書院番

淺野壹岐守組与頭

又三郎惣領

久貝 金八郎

大御番

北條遠江守組

鉄次郎養子

門 奈才助

小十人

男谷彦四郎組

金兵衛養子

清水 孫次郎

小普請組

久留十左衛門支配

弘藏養子

重野 仲

右大将様御附

岩瀬内記組御徒

天保十四年癸卯二月

合格之者 五拾九人

甲 五人
乙 貳拾五人
丙 貳拾九人

甲之部 五人

御目見以上 三人
御目見以下 貳人

大御番

久貝因幡守組

雄左衛門養子

山岡 鉄之助

小普請組

近藤織部支配

縫之助惣領

岡本 信太郎

寄合医師

安齋弟

喜多村 哲三

榊原隠岐守組御徒

榎本 愛之助

幸左衛門悴

加藤 斧三郎

〔御目見以下〕

田中茂三郎組

進物取次下番

日下部 勘右衛門

小普請方手代出役

池 田 活 平

乙之部 式拾五人

御目見以上 拾三人
御目見以下 拾貳人

寄 合

甲斐庄 喜右衛門

御小性組

大久保彦八郎組

堀 省 之 助

西丸御書院番

加藤伊豫守組

青 木 新五兵衛

同

同

松 田 信 之 助

小 十 人

本多左京組

馬 場 小 太 郎

御目見持格

御徒目付

金 子 熊 太 郎

御小性組

藤掛出羽守組

三郎兵衛惣領

朝 比 奈 諄 一 郎

御書院番

石川大隅守組

市兵衛養子

岩 瀬 愿 三 郎

表御右筆

半左衛門養子

奥 村 季 五 郎

御林奉行

庄右衛門惣領

御目付方手附由緒調出役

山 本 良 輔

小普請組

近藤織部支配世話取扱

帶刀養子

桜 井 友 次 郎

西丸御納戸

又兵衛次男

〔御目見以下〕

神谷 鉦次郎

大御番

曾我伊豫守組

鶴之丞弟

川勝 藤次郎

百人組

齋藤伊豆守組与力

支配勘定出役

坂本 源藏

大久保与右衛門組御徒

矢口 清三郎

小普請組

近藤織部組

永持 亨次郎

御簾中様

御廣敷伊賀者

井浦 愼次郎

同

御膳所小間遣組頭

小田切 清十郎

小普請組

戸川因幡守組

市川 齋助

支配勘定

民助悴

牧 左右之助

御徒目付組頭

又三郎悴

西丸御目付方書物御用出役

蒔田 又市

学問所勤番

栄助悴

加藤 餘三郎

松栄院様御侍

兵藏養方弟

浅井 勇三郎

学問所勤番

栄助四男

加藤 欽助

西丸切手御門番之頭

大河内善右衛門組同心

万右衛門次男

池田 善吉

嘉永元年

嘉永元年戊申正月

合格之者 五拾六人
甲 四人
乙 貳拾貳人
丙 三拾人

甲之部 四人
御目見以上 貳人
御目見以下 貳人

御小性組

近藤遠江守組

〔玄蕃頭〕
〔貼紙〕

永井岩之丞

寄合

小源太惣領

妻木傳藏

〔御目見以下〕

御先手

内藤内藏頭組与力

宮本久平

富士見御宝藏番

河野七太郎組

新次郎次男

田邊定輔

乙之部 貳拾貳人
御目見以上 拾五人
御目見以下 七人

御書院番

室賀美作守組

諏訪靱負

兩御番格

濱御殿奉行見習

木村勘助

大御番

九鬼式部少輔組

諏訪弥之助

小普請組

岡村備後守支配

本多錠太郎

西丸切手御門番之頭

又藏惣領

矢田堀景藏

御腰物奉行

十兵衛次男

小倉左右橘

西丸御小性組

大嶋甲斐守組

弥之助惣領

小林萬之助

御書院番

明子組

忠次郎惣領

新井孝太郎

同

室賀美作守組

寛一郎惣領

西尾善太郎

表御右筆

大次郎惣領

篠木金太郎

小普請組

松平美作守支配勤仕並

源右衛門惣領

佐山辰吉

同

水野式部支配

栄之助惣領

大井十太郎

御代官

藤之助四男

小林金四郎

小普請組

岡村備後守支配

[御目見以下]

潤之助弟

松崎鉄五郎

同

大嶋丹波守支配

仁右衛門三男

一色栄五郎

富士見御宝藏番

河野七太郎組

新次郎悴

御書院番頭

大久保因幡守仮御抱入与力

田邊孫次郎

百人組

松平内匠頭与力

平馬悴

仮御抱入与力

菅沼卯之助

御先手

朝比奈次左衛門組与力

脇屋省輔

火之番組頭

伊兵衛嫡孫承祖

小川達太郎

「登科録」

嘉永六年癸丑正月

御徒目付

清十郎悴

小田切鋼太郎

小普請方伊賀者

喜三郎悴

小普請方手代御雇

森村銚之助

江連小市右衛門

御廣敷若林源作組伊賀者

田中太左衛門

源五郎弟

林彦太郎

合格之者 七拾五人

甲 三人

乙 三拾五人

丙 三拾七人

甲之部 三人

御目見以上 壹人
御目見以下 貳人

大坂破損奉行

簾八郎惣領

永井信太郎

〔御目見以下〕

堀織部組御徒

圭三悴

塚本桓輔

御代官

白石忠太夫支配

但芴生野銀山附役人

木村松三郎弟

田中近之助

乙之部 三拾五人

御目見以上 貳拾四人
御目見以下 拾壹人

寄合

火事場見廻り

大草劔吉

寄合

中坊陽之助

御小性組

牧野筑後守組

大谷木勝之助

西丸小十人

雨宮權左衛門組

加藤晴四郎

小普請組

嘉永6年

大嶋丹波守支配世話取扱

佐藤平三郎

同

松平美作守支配

浦野金三郎

同

徳永伊豫守支配

設楽彈正

同

同

芹沢幸之助

御勘定奉行次席

浦賀奉行

伊豆守惣領

戸田寛十郎

小普請組

松平美作守支配組頭

五郎八郎養子

依田克之丞

御小性組

津田日向守組

采女惣領

伊東成一郎

同

溝口讚岐守組

弥門惣領

北村鑑太

大御番

本多日向守組

又一郎惣領

服部彦一郎

小十人

贅善右衛門組

小太郎養子

馬場庄次郎

御勘定

菅太郎養子

宮田文吉

小普請組

大久保筑前守支配

勇次郎惣領

山田虎次郎

新番頭

林内藏頭五男

武川五郎次郎

寄合

「登科録」

美作守三男
 伊 沢 謹 吾
 西丸御小性組
 白須甲斐守組
 寛十郎弟
 塚 原 重 五 郎
 同小十人
 松平六左衛門組与頭
 九藏四男
 井 田 滿 輔
 同人七男
 井 田 金 輔
 戸田久助・戸田五助組
 御鷹匠
 藤太夫三男
 三 橋 卯 之 助
 千人頭
 半左衛門三男
 原 眞 三 郎
 小普請組
 諏訪若狭守支配
 一庵次男
 吉 田 令 助

〔御目見以下〕

御先手
 稻葉金之丞組与力
 与太夫悴
 同人組与力仮御抱入
 小 嶋 廉 之 允
 大久保喜右衛門組御徒
 伴 鉄 太 郎
 小野喜一郎組西丸御徒
 大久保喜三郎
 松栄院様添番格御侍
 御用達勤向手傳
 傳四郎悴
 淺 井 新 三 郎
 御持之頭
 小栗又一組同心
 岡 田 德 三 郎
 西丸御持之頭
 松平作左衛門組同心
 嶋 村 孝 司
 新潟奉行支配並役
 三之助悴
 杉 浦 礒 吉
 御書院番頭

嘉永6年

〔貼紙敬字〕

池田甲斐守同心

武兵衛悴

中村 釧太郎

御膳所小間遣頭飯役並

御製藥所出役

孝之丞悴

岡田 徳五郎

御普請方役所門番人

同 同心飯役

岩藏悴

田原 清藏

御賄六尺方格

相作次男

木南 發太郎

丙之部 三拾七人

御目見以上 貳拾壹人
御目見以下 拾六人

西丸御書院番

酒井肥前守組

野本 八三郎

小普請組

諏訪若狭守支配

仲沢 喜之助

同

松平美作守支配

弓氣多楠太郎

同

大嶋丹波守支配

酒井 和三郎

同

小笠原弥八郎支配

阿久澤 銈次郎

同

同

上田 鈴次郎

同

土屋佐渡守支配

木城 安太郎

飛彈郡代(驛之)

三郎兵衛悴

福王 源十郎

御小性組

明幸組

左膳惣領

山本 原八郎

小普請組

「登科録」

諏訪若狭守支配

善十郎惣領

西丸御小性組

白須甲斐守組

右近惣領

平岩 又 太郎

西丸御小性組

白須甲斐守組

勝次郎惣領

久保 滿 太郎

御書院番

小笠原加賀守組

三九郎養子

山本 敬 次郎

御書院番

花房志摩守組

猪右衛門惣領

石丸 歙 之丞

大御番

本多日向組(マカ)

藤左衛門惣領

筒井 萬 輔

小十人

本多一学組

又五郎惣領

菅沼 鍾 三郎

御勘定

傳太郎惣領

星野 專 之助

同

富太郎惣領

猪狩 德 一郎

御普請方下奉行

又右衛門惣領

御普請方書物調出役

又作惣領

木暮 東 之輔

大御番

稻葉兵部少輔組

源太郎伯父

津田 貞 七郎

御勘定

圓兵衛次男

榎本 釜 次郎

小普請組

大久保筑前守支配

〔御目見以下〕

傳右衛門三男

山本文五郎

男谷精一郎組御徒

塚原麟平

小野喜一郎組西丸御徒

田沼倫之助

小普請組

酒井内藏助組

田上作左衛門

御勘定吟味方改役並

三十郎悴

渡辺安太郎

支配勘定

忠左衛門悴

西尾升助

學問所勤番

力藏悴

星野格太郎

同

兼三郎悴

高嶋三十郎

富士見御宝藏番

梁左衛門五男

水野友輔

男谷精一郎組御徒

貞助次男

安部賢藏

御先手

渡邊下総守組同心

關根領作

學問所下番

猪倉辰三郎

御小人

兼松龜次郎

御持之頭

多賀兵庫助組同心

源三郎悴

南條源太郎

御弓矢鎗奉行組同心

直右衛門次男

新部勝之助

御材木方改役下役

十左衛門三男

森田政吉

學問所下番

乾藏弟

嘉永6年・安政3年

宮澤鍋三郎

高松力藏

安政三年丙辰八月

合格之者 百九人
甲 四人
乙 五拾老人
丙 五拾四人

乙之部 五拾老人
御目見以上 三拾三人
御目見以下 拾八人

甲之部 四人
御目見以上 壹人
御目見以下 三人

小普請組

小笠原弥八郎支配

三郎右衛門惣領

井上弥三郎

〔御目見以下〕

大御番

九鬼式部少輔与力

惣左衛門悴

同人与力仮御抱入

新井鉞次郎

御徒目付

久平悴

宮本小一郎

小十人頭

彦七郎四男

寄合

朽木亀六

同

松平甲次郎

同

龜井勇之助

同

中野又左衛門

御小性組

酒井對馬守組

池田脩理

御書院番

津田美濃守組

牧野震之丞

同

大岡豊後守組

三島勘右衛門

御書院番

戸川伊豆守組

安政3年

三浦猪八郎
 表御右筆
 湯淺猪之助
 小十人
 杉原平左衛門組
 石川謙三郎
 同
 松平六左衛門組
 酒井和三郎
 小普請組
 小笠原弥八郎支配
 御勘定出役
 阿久澤銈次郎
 小普請組
 小笠原順三郎支配
 内田又八郎
 御小性組番頭
 豊前守養子
 新見郁三郎
 小普請支配
 右近惣領
 仙石弥三郎
 寄合

藤左衛門養子
 御小性組
 徳永伊豫守組
 勝之助惣領
 大谷木源太郎
 御小性組
 高木兵部少輔組
 勝次郎惣領
 久保満太郎
 御小性組
 高木兵部少輔組
 右近惣領
 平岩又太郎
 御書院番
 白須甲斐守組
 庄右衛門惣領
 諏訪庄太郎
 同
 花房志摩守組
 猪右衛門惣領
 石丸鋏之丞
 同
 大岡豊後守組

「登科録」

權六養子
 植村千之助
 大御番
 小笠原加賀守組
 要人物領
 伊奈金之丞
 林奉行
 源兵衛養子
 行方文五郎
 小十人
 本多一学組
 又五郎養子
 菅沼鍾三郎
 御勘定御吟味方改役
 三十郎惣領
 渡邊安太郎
 小普請組
 奥田主馬支配
 金三郎惣領
 深田鉦太郎
 同
 小笠原順三郎支配
 七郎右衛門惣領

御書院番
 内藤七太郎
 伊豆守次男
 戸川鉦三郎
 御書院番
 酒井壱岐守組
 銘太郎弟
 森川錠次郎
 同
 一柳播磨守組
 主税養方弟
 桜井鏘之丞
 大御番
 稻葉兵部少輔組
 源太郎厄介伯父
 津田貞七郎
 小普請組
 戸川主水支配世話取扱
 三郎兵衛次男
 萬年恒次郎
 同
 松平采女支配
 鏝五郎弟

安政3年

〔御目見以下〕

板橋乙次郎

富士見御宝藏番

藤沼源左衛門組

田上作左衛門

森川久右衛門組御徒

木平讓輔

小普請組

小笠原弥八郎組

齋藤謹吾

同

小笠原順三郎組

服部新重郎

同

小笠原順三郎組

西尾升助

富士見御宝藏番

河野七太郎組

寛次郎悴

酒匂敬三郎

学問所勤番組頭勤方

力藏悴

同勤番見習

星野格太郎

誠順院様添番格御侍

九郎左衛門悴

浅井新兵衛

欠所物奉行

庄太郎悴

小川十太郎

御書院番頭

一柳播磨守与力

五郎兵衛悴

小菅辰之助

小野整三郎組御徒

箱館奉行手附出役

武治悴

海老原庫太郎

小普請組

戸川主水組

龍大夫悴

水本龍太郎

御普請方改役

御普請方下奉行出役

金之丞次男

齋藤岩次郎

御持之頭

「登科録」

多賀兵庫助組同心仮御抱入

南條源太郎

御先手

岩瀬市兵衛組同心

関根領作

學問所下番

神田金太郎

同

猪倉辰三郎

御持之頭

馬場大助組同心

善左衛門悴

松本房之助

丙之部

五拾四人

御目見以上

三拾四人

御目見以下

式拾人

御小性組

久永石見守組

前田金之助

大久保豊後守組

大久保矢久郎

秋山安房守組

三島芳五郎

横田筑後守組

宮崎中務

御書院番

白須甲斐守組

福王源十郎

土屋佐渡守組

佐々木循輔

酒井肥前守組

野本八三郎

大御番

九鬼式部少輔組

多田銃三郎

御代官

羽田十左衛門

小十人

宮崎次郎大夫組

川上猪三太郎

松前三郎兵衛組

荒井郁之助

小普請組

大島丹波守支配

鈴木鉄三郎

仙石右近支配

木城安太郎

松平采女支配

板橋鏝五郎

同

小野寺閏之助

戸川主水支配

瀧川清三郎

阿部兵庫支配

坂本鉾之助

御書院番頭

豊後守惣領

大岡孫太郎

大目付

伊豆守惣領

箱館奉行

織部正惣領

堀孟太郎

淡路守惣領

村垣弟太郎

寄合

本所火事場見廻り

内膳惣領

水上鏡太郎

御小性組

松平對馬守組

左膳惣領

山本原八郎

御書院番

津田美濃守組

善兵衛養子

桑原廣三郎

大岡豊後守組

十左衛門惣領

田邊銀藏

御納戸

辰之丞惣領

近藤彦四郎

大御番

大久保因幡守組

彦之丞惣領

三輪金三郎

小十人

宮崎次郎大夫組

惠三郎養子

白戸惠吉郎

御勘定

「登科録」

富太郎惣領
 猪狩徳一郎
 小普請組
 大島丹波守支配世話取扱
 彦四郎惣領
 長六三郎
 御徒頭
 左近次男
 町野誠之助
 大御番
 稻葉兵部少輔組
 藏之助次男
 松本鋼三郎
 小笠原加賀守組
 權九郎弟
 知久健十郎
 奥御右筆
 彦太郎養方弟
 榎原文次郎
 小普請組
 戸川主水支配
 仙之助弟
 小林甚三郎

〔御目見以下〕

學問所勤番
 芳賀録之助
 中根七郎左衛門組御徒
 若泉次郎
 三枝左兵衛組御徒
 塚原麟平
 小野喜一郎組御徒
 田沼倫之助
 神尾市左衛門組御徒見習
 仲田太一郎
 小普請組
 小笠原弥八郎組
 安田次郎吉
 富士見御寶藏番
 孫兵衛悴
 松尾栄太郎
 小普請方吟味役
 勝五郎悴
 小普請方諸書物取調出役
 山本友輔
 表御臺所人
 平十郎悴
 同無足見習

安政3年・6年

三浦栄五郎

学問所勤番

功一郎悴

浅香太郎

御留守居番

黒澤正助組与力

清輔悴

金田六三郎

松栄院様添番格御侍

御用達勤向手傳

傳四郎次男

浅井金八郎

御鉄炮方

井上左太夫組与力

鏡太郎弟

沢内雅之丞

小普請方手代

小花作之助

千人頭

萩原弥右衛門組同心

川本豊吉

蕃所調所下番

田寺久之助

安政六年己未正月

甲科 四人

御小人

水谷大助

御書物同心

周之助悴

坂田力三郎

御賄六尺頭格

金五郎悴

宍戸鎰太郎

御普請方役所門番人

惣右衛門悴

新部勝之助

小普請組

大寫丹波守支配世話取扱

彦四郎惣領

長六三郎

同

同人支配

富太郎伯父

榎原文次郎

富士見御宝藏番

〔御目見以下〕

「登科録」

乙科 四拾五人

河野七太郎組
 孫兵衛悴
 松尾 栄 太郎
 学問所勤番
 功一郎 悴
 浅 香 太 郎
 寄 合
 大久保四郎太郎
 同
 妻 木 主 計
 中奥御番
 土 屋 兵 庫
 御小性組
 秋山安房守組
 松 平 誠 三 郎
 同
 同
 三 島 芳 五 郎
 同
 神保三千次郎組
 小 出 修 理
 御書院番

松平美作守組
 山 岡 熊 次 郎
 同
 同
 板 橋 鉄 五 郎
 同
 土屋佐渡守組
 佐々木 循 輔
 同
 大岡豊後守組
 瀧 川 清 三 郎
 大御番
 建部内匠頭組
 上 田 鈴 次 郎
 小普請組
 大嶋丹波守支配
 鈴 木 鉄 三 郎
 同
 奥田主馬支配
 岡 鏡 三 郎
 同
 岡崎藤右衛門

同

小笠原順三郎支配

水品樂太郎

御留守居

伊豆守惣領

外国奉行・箱館奉行兼帯

織部正惣領

梶孟太郎

外国奉行

筑後守惣領

水野甲太郎

小十人頭

一学惣領

本多勝之助

二丸御留守居

與右衛門惣領

田安殿物頭

吉左衛門惣領

河合帙之助

御書院番

徳永伊豫守組

善兵衛養子

桑原廣三郎

同

大岡豊後守組

讃之助惣領

織田權之丞

御納戸

辰之丞惣領

近藤彦四郎

大御番

永井信濃守組

彦之丞惣領

三輪金三郎

同

稻葉兵部少輔組

秀之丞養子

武藏櫻橘

同

小笠原加賀守組

孫四郎養子

間宮昌三郎

小十人

贅善右衛門組

信藏養子

三浦一郎

「登科録」

〔御目見以下〕

小普請組
 奥田主馬支配
 又一郎惣領
 御書院番
 御書院番
 德永伊豫守組
 八郎四男
 瀧川寅三郎
 大御番
 稻葉兵部少輔組
 藏之助次男
 松本鋼三郎
 小普請組
 仙石右近組
 岩崎吉太郎
 同
 小笠原順三郎組
 栗原啓太郎
 荒尾平八郎組御徒
 若泉次郎
 三枝左兵衛組御徒
 塚原麟平
 御先手

三浦美作守組與力
 三郎助悴
 無足見習
 鈴木鎚太郎
 同
 雄之進悴
 無足見習
 吉澤源次郎
 神尾市左衛門組御徒
 太十郎悴
 無足見習
 仲田太一郎
 御書物同心
 周之助悴
 仮御抱入
 坂田力三郎
 御鉄炮方
 井上左太夫組與力
 銃太郎弟
 須山雅之丞
 學問所下番
 近藤熊太郎

安政6年

丙科 四拾人

小普請組

大島丹波守組

古屋勝之助

同

明キ組

山内仁三郎

御細工所同心

五左衛門悴

無足見習

竹原平次郎

御賄六尺頭格

金五郎悴

六尺方無足見習

宍戸鎰太郎

新潟奉行支配定役

栄太郎悴

古谷簡一

吹上役人目付格下役

源五郎悴

嘉山熊太郎

寄合

火事場見廻り

金田貞之助

寄合

永井兼之助

同

佐藤兵庫

御書院番

赤松左衛門尉組

羽倉内記

大御番

京極周防守組

多田銃三郎

小十人

永田豊後守組

川上猪太郎

小普請組

奥田主馬支配

藤堂平右衛門

小笠原順三郎支配

天野猩太郎

戸川主水支配

尾藤芳之助

同

宮澤録之進

「登科録」

明キ支配

鈴木九左衛門

同

坂本鉾之助

御船手

主水惣領

庄田彦太郎

溶姫君様御用人並

勇一郎養子

池野富五郎

御鉄炮御簞笥奉行

新右衛門養子

杉原敬之進

御林奉行

六郎左衛門惣領

辻久太郎

天璋院様御用達

小三郎惣領

石倉鐘太郎

小普請方改役

善藏惣領

飯嶋半十郎

御林奉行

刃十郎養子

御目見持格

晴光院様御侍

金四郎惣領

手嶋銓之助

御藏奉行

東太郎三男

竹嶋房之助

御附人

清水附近習番介

大竹政次郎弟

竹内重吉郎

父存寄有之本姓爲

名乗申候

御小性組

曾我若狭守組

愛之助惣領

天野内藏助

明キ組

勇之助惣領

松波道太郎

土屋備前守組

庄太夫惣領

安政6年

〔御目見以下〕

御書院番
岡田斧五郎

大岡豊後守組
連之助惣領

山岡百助

小十人

雨宮權左衛門組

伴十郎養子

吉田鑑之助

小普請組

奥田主馬支配

三太郎養子

五島馬之助

小十人

折井市左衛門組

久年之助次男

井上鳥之允

御膳所御臺所人

作次郎悴

西丸御臺所人

石川勝之助

御留守居番

黒沢正助組與力

清助悴

無足見習

金田六三郎

西丸裏御門番之頭

伊勢平五郎組與力

柴崎造酒藏

三枝左兵衛組御徒

窪田昭次郎

小普請組

奥田主馬組

水谷竹四郎

薬師寺筑前守組御徒組頭

幸七郎悴

貝塚幸太郎

天璋院様御侍

爲之助悴

片山直太郎

御鉄炮玉藥奉行

中川市助・沢勘七郎組

忠平悴

無足見習

牧和三太

西丸表御臺所小間遣組頭

「登科録」

平三郎悴

同小間遣

堀越龜之助

藤村權左衛門組御掃除之者

加藤謙次

小普請組

仙石右近組

平野雄次郎

御賄六尺

大助悴

豊太郎

「二丁白紙」

文久二年壬戌正月

甲科 三人

御勘定

日下部詳太郎

高橋豊次郎組御小人

新右衛門次男

山本運之助

同人三男

山本誉五郎

乙科 四拾九人

寄合

佐藤兵庫

御小性組

水野山城守組

原誠之助

齋藤攝津守組

遠山鏘次郎

大久保駿河守組

庄田彦太郎

村松備中守組

藤堂平右衛門

御書院番

赤松左衛門尉組

學問所南二階通稽古人調方出役

岡田斧五郎

神保山城守組

池野富五郎

小普請組

松浦彈正支配

酒井一郎

初鹿野河内守支配

矢部源八郎

寄合

美作守養子

松平帶刀

御小性組

戸川近江守組

愛之助惣領

天野内藏助

大久保駿河守組

學問所南二階通稽古人調方出役

善之丞惣領

揖斐吉之助

奥田下野守組

十藏惣領

關欽之丞

御書院番

土屋備前守組

主税惣領

櫻井亥之助

松平筑後守組

連之助惣領

山岡百助

戸田隼人正組

内藏助養子

本多貫一郎

御書物奉行格

學問所勤番組頭

孝之助次男惣領

内山鈔三郎

大御番

近藤遠江守組

龜次郎養子

丸茂榮五郎

小十人

稻葉清次郎組與頭

庄次郎惣領

長瀧庄藏

佐渡奉行支配組頭

善藏惣領

箱館奉行江戸御役所書物御用出役

飯島半十郎

御代官

伊太郎惣領

林國太郎

御藏奉行

東太郎惣領

竹島房之助

御臺様・天璋院様御用達

〔登科録〕

小三郎惣領
 石倉鐘太郎
 小十人
 稻葉清次郎組
 久年之助次男惣領
 井上義三
 雨宮權左衛門組
 胖十郎養子
 吉田鑑之助
 小普請組
 能勢熊之助支配
 三太郎養子
 五島馬之助
 大竹主膳支配組頭
 義助三男
 長谷川祐助
 御書院番
 徳永伊豫守組
 八郎五男
 瀧川外四五郎
 富士見御宝藏番之頭
 喜八郎弟
 本多鉄四郎

〔扶必朝比奈〕
 〔御目見以下〕

大坂御具足奉行
 三十郎三男
 渡邊忠三郎
 箱館奉行支配組頭勤方
 尚太郎次男
 鈴木熊次郎
 小普請組
 岡田将監支配
 他次郎厄介從弟違
 朝比奈鑣三郎
 同人組
 上下格
 淺野順之助
 大御番頭
 近藤遠江守與力
 仙右衛門悴
 無足見習
 清水輔次郎
 仙石播磨守組御徒組頭
 幸七郎悴
 同人組御徒見習
 貝塚幸太郎
 富士見御宝藏番

河野七太郎組

堅十郎悴

大川元次郎

御臺様・天璋院様御侍

爲之助悴

御軍艦取調役出役

片山直太郎

大御番頭

松平伊豫守與力

幾太郎弟

金井源吾

御先手

小野次郎右衛門組與力

貞平次男

富山讓輔

御鉄炮玉藥奉行

(巻)

中川百助・杉浦正一郎

問宮左衛門組

忠平悴

同人組

林大學頭・林凶書頭

手附書物御用出役

牧嘉九三

學問所下番

白井佐一郎

伊藤新之助組

御中間

猪野銀太郎

高橋金之助組

御中間

足立國之助

藤村權左衛門組

御掃除之者

加藤謙次

御賄頭支配

御賄六尺方

大助悴

関岡豊太郎

高橋捨次郎組

御小人目付

新十郎弟

森造酒三郎

兩御番格

吹上奉行河合安三郎支配

吹上御掃除之者

丙科 四拾貳人^(卷)

御代官

小林藤之助手附出役

鎌八郎弟

相原安次郎

清水付

小十人

齋木孫右衛門組並

木寺籌太郎

同

同

宮南荒次郎組

八郎惣領

吉村源太郎

寄合

松平栄之助

小十人

雨宮權左衛門組

石川勝之助

御勘定

管浪外三郎

小普請組

松浦彈正支配

坂本銚之助

同^(卷)

安藤與十郎支配

内藤來輔

同^(卷)

能勢熊之助支配

木曾直四郎

同

岡田竹次郎

佐渡奉行

與左衛門惣領

戸田嘉十郎

新番頭

山城守惣領

三好悌三郎

御使番

次郎八郎養子

仁木鍛次郎

同

八郎左衛門惣領

大久保銳次郎

溶姫君様御用人

泰助養子

飯島正次郎

西丸御留守居

能登守嫡孫承祖

永井謙之助

大御番

内田主殿頭與頭

次郎太郎三男惣領

仁科啓之丞

御小性組

水野山城守組

矢九郎惣領

大久保銚太郎

同

邦之丞惣領

畠山五郎七郎

御書院番

曾我若狭守組

鎗次郎養子

町野綱之丞

大坂御弓奉行

同所御具足奉行
兼帶

鍋之助惣領

大久保發太郎

小普請方格

同 改役

小太郎養子

小普請方書物調出役

吉田清三郎

小普請組

大竹主膳支配

御焰硝藏勤番出役

八十之助惣領

内藤孝太郎

御小性組

戸川近江守組

斧太郎次男

内山賢作

大久保駿河守組

鉞之助弟

酒井七十郎

小普請組

戸田民部支配

清之助叔父

三枝敬之進

初鹿野河内守支配

〔御目見以下〕

飛驒守次男

佐々木泉吉

精姫君様添番格御侍

松井又太郎

火消役

本多寛年組與力

弥門悴

見習

久下幾太郎

御留守居番

石川左内組與力

金田六三郎

仙石播磨守組御徒

御實紀書物御用出役

菅沼柳之助

渡邊爲三郎組御徒

窪田昭次郎

小野喜一郎組御徒

整三

白石金太郎

御鳥見

要作悴

大川千作

支配勘定

三郎助悴

大井鎌吉

同

友次郎養子

佐藤松之丞

西丸御徒目付

藤三郎悴

由緒書取調御用出役

生駒藤之允

御膳所組頭

中助悴

齋塚成之丞

表火之番

傳吉郎悴

小野利一郎

大御番頭

建部内匠頭同心

稻垣真之助

同

吉川文之助

學問所下番

寺田健三郎

文久2年・慶應元年

慶應元乙丑年正月

甲科

御書物同心

益太郎悴

星野鎗藏

御臺様・天璋院様御廣敷

(卷)

波多野鍋之助

大熊鍔之助

津田三五郎

後藤錠太郎

組伊賀者

角藏三男

須田彦三郎

御膳奉行支配

御春屋御門番人

新左衛門次男

上野省三

大御番

齋木主水正組

飯塚帯刀

西丸切手御門番之頭

純之進養子

乙科

〔御目見以下〕

安間藤之助

御先手

永見健次郎組與力

追沼新八郎弟

嶋田源六郎

〔〔貼紙〕〕

講武所奉行支配無役

窪田鉄三郎

小普請組

岡田将監支配

御焰硝藏勤番出役

山田良助

同

高力直三郎支配

長崎奉行支配書物御用出役

木曾直四郎

同

岡田将監支配

菅沼寅太郎

同

高力直三郎支配

岡田主税

同

「登科録」

堀伊賀守支配

柴山 柳太郎

小普請組

山口近江守支配

庄太夫惣領

御書院番

有馬安房守組

斧五郎惣領

岡田 鐫之允

御書院番

八木但馬守組

猪八郎養子

三浦 正朔

御書物奉行

豊次郎養子

渥美 三平

小石川御薬園奉行見習

源三郎養子

岡田 午之允

小十人

鈴木伊兵衛組

別手組出役頭取

平左衛門次男惣領

御勘定

松村 鎌吉

三郎助養子

大井 鎌吉

小普請組

山口近江守支配

御焰硝藏勤番出役

八十之助惣領

長崎奉行支配書物御用出役

内藤 孝太郎

勤仕並寄合

阿波守次男

三好 鍵之丞

寄合

学問所北二階世話簿取締

罇三郎厄介從弟

横山 麓次郎

御書物奉行

萬介弟

山田 慎太郎

大御番

小笠原志摩守組

潤之助次男

〔御目見以下〕

小長谷鎗三郎

小普請組

曲淵安藝守支配

鎌三郎次男

小尾鑛太郎

遠山内膳組御徒

關 永 太郎

朝比奈兵八郎組御徒

白石金太郎

小普請組

曲淵安藝守組

全集手傳

上下格

矢村 柰 太郎

同

同

上下格

濱 田 省 三

御天守番

河野孝之助組

藤三郎悴

由緒書御調御用出役

生 駒 藤 之 允

御天守番

石川周二組

中助悴

齋 塚 成 之 丞

富士見御寶藏番

本多喜八郎組

学問所教授方出役頭取

甚弥悴

長 谷 部 太 郎

本多隼之助組御徒組頭

一 太 郎 次 男 惣 領

小 山 惣 次 郎

奥火之番

勘兵衛悴

小 方 金 三 郎

深澤鉄三郎支配

寄場元締役

半蔵次男

重 松 次 郎

御鉄砲方

講武所砲術師範役 兼帶

井上左太夫組與力

「登科録」

丙科

藤田忠藏厄介甥
 中 井 仲
 和宮様・天璋院様御廣敷伊賀者
 須 田 彦 三 郎
 御 先 手
 上野七太夫組同心
 長 岡 林 之 助
 学問所下番
 中 山 發 之 助
 同
 寺 田 健 三 郎
 御膳所小間遣
 覚次郎弟
 倉 橋 銳 三 郎
 御小性組
 巨勢大隈守組與頭
 八之丞惣領
 萩 原 政 太 郎
 御書院番
 水野伊勢守組
 善一郎惣領
 外国奉行支配書物御用出役

林 部 龜 太 郎
 御小性組
 酒井安房守組
 三平惣領
 森 川 金 太 郎
 御書院番
 八木但馬守組
 主税惣領
 織 田 平 太 郎
 御書物奉行格
 欠所物奉行
 建三郎養子
 中 村 啓 次 郎
 御納戸
 龍三郎惣領
 開成所書物御用出役
 竹 内 平 次 郎
 御納戸
 造酒之丞惣領
 根 岸 缺 三 郎
 御作事奉行支配組頭
 喜三郎惣領
 川 俣 新 九 郎

御勘定吟味方改役

朔次郎惣領

長野甚太郎

龜之助殿物頭

吉十郎惣領

東條金弥

御小納戸

鉞之助弟

別手組出役

酒井七十郎

御小性組

巨勢大隅守組

又十郎弟

堀銳三郎

〔御目見以下〕

御旗奉行
森川肥後守組與力

關敬吉

講武所奉行組世話役

上下格

又七郎悴

松原久和橘

小普請組

岡田将監組

八郎悴

加藤常次郎

寄場吟味役

秀一郎次男

和田要太郎

上下格

御普請役

鍔五郎次男

藤井金三郎

学問所下番

高橋專藏

表六尺世話役

勘七悴

同無足見習

鎗次郎

学問所下番

教之助弟

中山與之助

「登科録」

「二丁白紙」

昌平學吏員

星野壽平
